

2019 年度（令和元年度）

事業報告および決算報告書

自 2019 年(令和元年) 4 月 1 日

至 2020 年(令和 2 年) 3 月 31 日



一般財団法人 日本生物科学研究所
NIBS NIPPON INSTITUTE FOR BIOLOGICAL SCIENCE

1. 事業の概要と特筆すべき成果

2019 年度は、事業計画に基づき産業動物の衛生問題対策、食の安全性を確保する畜水産物の生産及び伴侶動物の疾病予防と健康管理など、社会の要請に応じて貢献すべき事業分野の基礎的及び応用的研究を実施した。また、当所で蓄積されてきた研究成果・技術は、日生研株式会社の諸活動ならびに広く産業動物の衛生問題・環境を改善するための技術及び材料提供に活かされ、また病性鑑定ならびに国内外関係者の研修・講習会などに積極的に活用された。

令和元年 5 月 24 日の第 94 回日本豚病研究会において、長井伸也（弊所所長兼日生研株式会社代表取締役社長）に第 22 回藤崎優次郎賞が授与された。本賞は、疾病予防事業、家畜衛生技術と衛生思想の普及、家畜衛生技術の開発等を通じ、養豚産業の発展に顕著な業績に対して贈呈される賞であり、長井の「豚細菌病ワクチンの開発と関連基礎研究」に関する長年の業績が養豚業界の発展に深く貢献したことに対する評価であった。

2019 年度は、日生研株式会社を通じて申請した 1 製剤の製造販売承認申請が承認された。加えて 2019 年度は新たに 2 製剤について製造販売承認申請を行った。

2. 研究課題及び関連業務

2019 年度は、研究課題 25 課題を実施した。動物用生物学的製剤（ワクチン）として製造販売承認申請中の製品化課題 5 題、製品化を目指す課題 11 題、基礎研究課題 7 題、その他業務を実施した。

3. 病性鑑定

検査部では、外部の依頼に応じ、研究部と協力してブタ、ニワトリ、ウマおよび魚、合計 155 件の病性鑑定を実施した。

4. 抗体検査その他

- 1) 検査部では、外部の依頼に応じ、ブタ及びニワトリ、合計 951 件、20,065 検体の抗体検査を実施した。また、SPF 鶏及びミニブタ、計 828 検体の抗体検査を実施した。
- 2) 日生研株式会社実験動物部の SPF 鶏清浄化プロジェクトチームに研究員 1 名、研究アドバイザー 2 名及び技術員 1 名を参加させ、鶏貧血ウイルスの抗体検査及び PCR 検査を実施し、月 1 回の進捗会議に参加させた。

5. 研究成果の発表

- 1) 研究論文 5 報を国際英文誌（査読あり）に発表した。
- 2) 研究論文 1 報を邦文誌（査読あり）に発表した。
- 3) 研究成果 3 題を学会及び研究会に発表した。

6. 学術広報

- 1) 日生研たよりを無償で、国内 764 か所、国外 26 か所、合計 790 か所の関係機関と個人へ 4 回、各回 931 部を配布した。
- 2) 日生研たよりや事業内容の広報、情報公開をホームページにより積極的に行った。

7. 学会及び研究会活動

1) 学会及び研究会

当所の研究員は、2019 年 4 月 1 日現在、16 学会に延べ 51 名、4 研究会に延べ 21 名が所属している。また、賛助会員あるいは団体会員として 18 の学会・研究会等の運営に協力した。

2) 所内の研究会等

- (1) 研究課題の進捗状況・成果を発表する第一研究会を開催した。
- (2) 外部から専門家を講師として招待し、公開講演会（第二研究会）を 4 回開催した。
- (3) 各研究課題について研究推進会議を定期的実施した。
- (4) 研究員が広く知識を吸収するため専門誌に掲載された学術論文の抄読会を定期的に実施した。
- (5) 研究員の語学力向上をはかるため毎週 1 回、米国人講師による英語教室を開催した。

8. 研修および技術協力等

- 1) 研究員等の知識・技術能力向上のため、所外で開催された学術集会、セミナー、シンポジウム、研究会、研修会、講習会等を延べ 33 名が受講した。
- 2) 研究所など延べ 4 機関からの要請に応じて微生物株、検査材料など延べ 9 種類の研究材料を譲渡した。
- 3) 研究所など延べ 3 機関から微生物株など 19 種類の研究材料を譲受した。

9. 特許

国際出願（PCT 出願）1 件について、移行手続きを行った US、EP、メキシコ、韓国、フィリピン、ベトナムの 6 か国で出願公開された（豚流行性下痢の予防又は治療方法、ワクチン及びワクチンキット）。

10. 講師等の派遣

各県や大学など国内延べ 5 機関で開催された研究会、講習会、研修会、業績発表会等に研究員等を講師、助言者、審査員等として派遣した。

11. 外部組織・委員会・学会等の役員等

13 機関の外部組織・委員会・学会等の理事、評議員、委員、専門家としてそれらの運営等に協力した。

12. 日生研奨励賞及び日生研功労賞の授与

1) 日生研奨励賞

本年度も選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はなかった。

2) 日生研功労賞

選考委員会からの推薦に基づき審議したが、授与はなかった。

13. 実験動物試験数

動物の愛護および管理に関する法律等に基づき作成した「実験動物福祉並びに動物実験等及び実験動物生産の管理に関する規程」に沿い、40 件の実験を行った。